

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣研究報告書

2011年 9月 日

派遣者氏名（専門分野）	畑井 恵 （ 西洋美術史 ）
-------------	----------------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	パリにおけるピート・モンドリアンの交友関係
-------	-----------------------

派遣期間

2011年 8月 23日 ～ 2011年 9月 2日

	国	都市	訪問機関	受入研究者
訪問 研究 機関	フランス	パリ	フランス国立図書館	なし
	フランス	パリ	フランス国立美術研究所附属図書館	なし
	フランス	パリ	フランス国立美術館アルシーヴ	Elisabeth Rey-Freudenreich
	フランス	パリ	クストディア財団／オランダ研究所	Sarah Van Ooteghem

派遣先で実施した研究内容

報告者はこれまで、オランダ人画家ピート・モンドリアン (Piet Mondrian, 1872-1944) のパリ時代 (1920～30年代) に関する研究を行ってきた。修士論文に向けては、パリ、デパール街 26 番地のアトリエに注目し、構造や内装のみならず、その内部で生じていた事柄についての考察を進めている。アトリエをその機能的側面から検証し直す中で、周辺の芸術家同士の影響関係を明確にするため、当時モンドリアンと交流のあった芸術家の証言を包括的に検討する必要があると考えた。しかし、ヨーロッパで開催された展覧会のカタログや当時の芸術雑誌、周辺の芸術家に関する文献は国内でのアクセスが困難であり、書簡やアーカイヴ資料といった一次資料となるものは、現地でのみ閲覧可能なものが大半である。そこで報告者は、パリの当時の状況を示す文書の調査のために、今回の「横断的研究視察」に参加した。

今回の派遣にあたって設定した研究テーマは、「パリにおけるピート・モンドリアンの交友関係」である。フランス国立図書館(Bibliothèque nationale de France, 以下 BnF と略記)をはじめとするパリ市内の図書館・研究機関において、1920～30年代当時の状況を示す資料収集を行った。パリ滞在中には複数の図書館や研究所を歩き来し、各所で異なる文献の閲覧・複写方法、マイクロフィッシュや貴重本にアクセスする手順を学んだ。日程等の詳細は、以下のようである。

パリ到着の翌日、9月24日に BnF での登録を済ませ、Le site François-Mitterrand および Le site Richelieu-Louvois における調査が可能となった。その日のうちにフランス国立美術研究所附属図書館 ('Institut national d'histoire de l'art, 以下 INHA と略記)での登録を行ない、翌日 25 日から、これらの施設においてモノグラフや展覧会カタログなどの出版物を中心に調査を開始した。主な調査対象としたのは、テオ・ファン・ドゥースブルフ、J.J.P.アウト、ミシェル・スフォール、アレクサンダー・カルダー、ハンナ・ヘッヒ、ジャン・ゴラン、フェリックス・デル・マルルなど、当時モンドリアンと交流のあった芸術家である。国内の図書館に所蔵されていない展覧会カタログや貴重文献、マイクロフィッシュの形で保存されている博士論文からは、周辺芸術家に関する詳細や文献リストを確認するなど、幅広く情報を得ることができた。

また、『セルクル・エ・カレ』や『カイエ・ダール』『アブストラクション・クレアシオン』など、同時代の芸術雑誌、関連文献を閲覧し、芸術家グループ活動内でのモンドリアンの位置づけに関して新たな知見を得た。これら国内でアクセス困難な文献はできる限りの複写を行ない、INHA では、重要な図版など部分的に写真撮影を申請した。

フランス国立美術館アルシーヴ(Archives des musées nationaux, 以下 AMN と略記)、およびクストディア財団(Fondation Custodia, 以下、FC と略記)においては、渡航前に先方の担当者との連絡を取ることで、展覧会関連資料、モンドリアンの書簡等の一次資料調査を行なうことができた。AMN には 26 日の午後と 27 日の午前中に、FC には 29 日の午前中に訪問の約束を取り付け、BnF や INHA と行き来しつつ各所で調査を行なった。AMN と FC において、資料の複写は不可であったが、書類申請により写真撮影が可能となったため、それぞれで 239 枚、179 枚の写真撮影を行なった。

以上のように、派遣先では後の再訪も考慮に入れつつ各研究施設の利用法を学び、複写や写真撮影など資料収集を中心に行なった。他の参加者との研究ミーティングや個人的な情報共有を通し、BnF の利用法をよりスムーズに把握することができたため、貴重書を含めて多くの文献に当たることができた。今後は修士論文執筆に向け、収集した資料の整理・読み込みが課題となる。直筆の書簡など、内容の把握に時間を要するものも多いが、貴重な一次資料の一つとして今後の研究への活用が見込まれるため、他の文献資料と共に読み解いていきたい。

研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

モンドリアンのパリ時代の交友関係を明らかにするため、作品の造形的影響が見られる芸術家を中心に展覧会カタログやモノグラフの確認、特に国内では関連文献の少ない芸術家を対象に資料収集を目的とした。また、当時のパリにおけるアート・シーンを理解する上で重要となる、様々な芸術家サークルの活動を示す資料も調査の対象とした。複数の図書館・研究所で調査を実施した結果、出版物などの二次資料に限らず、展覧会関係のアーカイヴ資料や作家の書簡といった一次資料の確認も行うことができた。以下に、今回確認できた主な資料内容を記す。

・展覧会カタログ・モノグラフ：

Piet Mondrian, Theo Van Doesburg, J.J.P. Oud, Michel Seuphor, Hannah Höch, Jean Gorin, Joaquin Torres-García, Félix Del Marle, Alexander Calder に関して。

・芸術家サークル関連資料：De Stijl, Cercle et carré, Cahiers d'art, Abstraction-Création に関して。

・展覧会関連資料：1969 年および 2002 年（いずれもパリで開催）のモンドリアン展に関して。

・モンドリアンによる、J.J.P.アウト、サロモン・スレイペル、クリスチャン・ゼルヴォ宛の書簡。

中でも、ハンナ・ヘッヒの展覧会カタログ (*Hannah Höch : collages, peintures, aquarelles, gouaches, dessins/ Collagen Gemalde Aquarelle Gouachen Zeichnungen, Paris/ Berlin, 1976.*) には、作家に対するインタビューの中にモンドリアンとの交流を示す証言が確認できた。モンドリアンのアトリエ研究を進める上で、このような周囲の作家が残した言葉は重要であると報告者は考えている。今回の調査で明らかとなった芸術家同士の交流や芸術家サークルの活動を踏まえ、今後は、当時の状況変化とモンドリアンのアトリエや作品の造形変遷とのつながりも検討していきたい。

派遣後の研究発表の予定

10 月 29 日に行われる横断的研究視察報告会での成果発表、および調査結果を反映させた修士論文執筆を予定している。